

スゴイ!

国立印刷局 小田原工場

2024年7月3日、20年ぶりに新しいお札が発行されました。そこで、文化レポーターと文化政策課総勢11名で国立印刷局小田原工場へ見学に訪れました。本号は、お札工場のビックリ見学レポートです。

※正式名称は「日本銀行券」ですが、ここでは馴染みのある「お札」と表記しています。

今号の編集長



発行月：令和7(2025)年3月
発行者：小田原文化レポーター

いちえん
A券(壹圓券)



撮影場所：国立印刷局小田原工場

いろいろ小田原とは？

小田原には古くからたくさん文化が花開き、現在も活気ある活動が続いています。そんな小田原のアレコレを見つけたレポートをもっと多くの方に！という願いを込めて発刊しています。

カラー版はこちらから

小田原市 文化レポーターホームページ内で過去の「いろいろ小田原」がカラーで見られます



Instagramはこちらから

文レポ(文化レポーター)が気になっている情報を載せています

戦後の新券は 金次郎から始まった!!

/広目子

終戦翌年の昭和21(1946)年3月に、新しいお札が発行されました。

A券※と呼ばれるお札は、壹圓券、五圓券、拾圓券、百圓券の4種類でした。

壹圓券の肖像には二宮尊徳(金次郎)が選ばれました。戦後に日本が目指した民主主義の象徴として選ばれたそうです。

壹圓券の中央下側には、鶏、稲、小麦、さつまいもなどが描かれました。当時の食糧難の解決を願ったのかもしれませんが。

国立印刷局小田原工場でも印刷されました。

※この時からお札の呼び方がA券・B券・C券に変わりました。今回の新しいお札はF券と呼ばれています



尊徳記念館の二宮尊徳(金次郎)像

桜もスゴイ! 小田原工場の観桜会に行こう!! 年に一度のチャンス

/予史重

国立印刷局小田原工場敷地内では毎年3月下旬~4月上旬に約400本のソメイヨシノが開花。敷地内でお花見を楽しめる「観桜会」が開かれます。この日は、展示室を含む工場一部敷地が解放される年に一度のチャンス! 詳細な日程は開花状況に合わせて決まるので、小田原工場のホームページをチェックしてみてください!!



例年の観桜会時の様子(提供:国立印刷局小田原工場)



小田原工場での
イベント情報は
こちらから

酒匂川もスゴイ! 全国のお札の用紙の約半分は 小田原生まれ

/予史重

国立印刷局小田原工場では、お札を印刷するだけでなく、お札にする「用紙」そのものも作っています。それは、酒匂川の良質な水が、紙すきに適していたから。お札の用紙を作っているのは全国でも小田原工場と岡山工場の2カ所だけ。つまり、全国のお札の約半分は、酒匂川の水で作られた小田原生まれなのです!



出典：国立印刷局ホームページ

私も工場見学に
行きたかったなあ~
By 備堂



行ったゾ！ スゴイゾ！ 国立印刷局 小田原工場 見学レポート



撮影場所:国立印刷局小田原工場

『日本のお札は凄いぞ！』

/広目子

JR鴨宮駅近くにあるお札を製造する国立印刷局小田原工場を見学しました。お札は千円札のように「札」ではなく、千円券と「券」で呼びます。それはお札に「日本銀行券」と印刷されていることから分かります。工場では大きな印刷機によって1シートお札20枚で次々と印刷されている様子が窓越しに見学できます。お札に汚れがついては大変ですから、印刷する工場の中はとてきれいでゴミ一つ落ちていませんでした。展示室にあるお札の拡大写真では、人物の顔が微細な線で彫られていることが分かります。ファミリーで見学しても楽しいです。お土産にお札デザインのハンドタオルを買いました。



1億円の重さ体験コーナー
「重いぞ！1億円」（編集長）

『お札は美術品』

/しげじい

国立印刷局小田原工場では、何と日本のお札の約1/4を大型自動印刷機で徹底した品質管理のもとで印刷しています。ここは原材料から印刷まで全てに取り組む貴重な工場で、そのため国立印刷局唯一の研究所が隣接し、様々な偽造防止等の技術が開発されているそうです。偽造防止には手彫りの版が有効で、約20年に一度のデザイン変更の為に、手彫りの版を作る技を傳承する人材を長年かけて養成、まさに美術品そのものではありませんか！



お札のパネルの前で記念撮影！

『技術の粋を集めた印刷機』

/ゆきぐま

印刷といえば遙か昔の高校新聞部のころ新橋の印刷所に通ったことを思い出した。確か凸版だった。去年7月に発行された新しいお札には、印刷技術の粋が凝縮されているという。地の細密な模様はオフセット、肖像や金額の盛り上がったところは凹版、記番号と日本銀行総裁印は凸版だそうだ。それぞれ、図案、安全、管理にふさわしい印刷技術が使われている。ふと思った。1万円札を手に入ればうれしいが、ガラス窓越しに見た刷り上がったお札のシートを欲しいと思わないのはなぜだろうか。



お札のシートはお金に見えない！
出典:国立印刷局ホームページ

『楽しく学べる展示室』

/じんちゃん

83年の歴史を重ねてきた酒匂の国立印刷局小田原工場は、全国に6カ所ある工場の一つで、世に流通しているお札の約1/4は小田原産とのこと。トップシークレットの施設ながら見学レーンも整備され、楽しく学べる展示室もあり親しみを感じます。小田原城址公園の2倍以上ある敷地は緑もあってゆったりしていました。普段は自転車で前を通るだけの施設でしたが、今年こそは観桜会に行ってみたいと思います。

『なぜか自慢したくなる！』

/予史重

小田原に暮らして約30年になりますが、工場内の見学は初めてで、大変充実した経験となりました。世に出回るお札の用紙の約半分が小田原・酒匂川の水で作られていること。しかもお札の印刷をしているのは小田原を含む4工場のみということ。……なども初めて知り、見学直後は、小田原工場産のお札が全部身内のものになったような錯覚になぜか陥り、市外に住む親類縁者に自慢しまくりました！

『おもしろいぞ!! 小田原川東(城東)地区』

/押切のリユウ

日本のお札の約1/4は国立印刷局小田原工場の手によるもの。印刷はお札20枚が1シートで印刷される由。1枚1枚に断裁されて発注元の日本銀行に納入されます。日銀が価値を保証する「日本銀行券」となって流通します。いまや小田原川東地区はお札の印刷に始まり、大きなショッピングモール、数々の料飲店、映画館、車のディーラー等にお札を使う一大商業エリア。そして前に相模湾、後背に丘陵。海～国立印刷局～商業～農業の複合エリアです。

小田原三の丸ホールから、こんにちは！

注目ポイント⑦：小田原三の丸ホール ギャラリー回廊

-レポーターが目指すホール情報をシェア-



大ホールと小ホールを繋ぐギャラリー回廊には、ピクチャーレールが設置され、本格的な壁面展示が可能。オープンスペースのため、誰でも気軽にアートに触れられる人気のエリアです。

小田原三の丸ホール

小田原市本町1-7-50

開館時間:9時～21時

休館日:第1・3月曜日・年末年始(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)

イベント情報は
こちらから



国立印刷局小田原工場
大場工場長



▲工場見学の申し込みはこちら



工場の桜と富士山
(提供:国立印刷局小田原工場)

国立印刷局小田原工場では、昭和16年から酒匂の地でお札(日本銀行券)の製造を行っています(製紙と印刷の両方を行っているのは日本でここだけ!)。昨年は、20年ぶりに新しいデザインのお札が発行されましたが、職員は日々、高品質で均質な製品の製造に全力で取り組んでいます。観桜会では、満開の桜が皆さんをお迎えするほか、工場構内の芝生広場と資料展示室を開放し、手すきの体験コーナーなども用意しておりますので、ぜひお越しください(通常の工場見学もHPで随時受付中です。)